

再入院に係る調査について

1. 調査の目的

- 医療効率化の一つの指標として在院日数が用いられるが、DPC 包括評価の実施に伴いこの短縮が図られているなかで、提供されている医療サービスが低下していないかどうかを再入院の頻度やその理由を指標として検証する。

2. 班構成

- ◎安川林良：松下記念病院長（班長）
 - 西岡 清：横浜赤十字病院長
 - 原 正道：横浜市立大学医学部教授
 - 柿田 章：北里大学名誉教授（私立医科大学協会副会長）
 - 小山信彌：東邦大学医学部附属病院大森病院長
- 注：◎は、班長

3. 調査方法

(1) 調査方法

- 退院患者基礎調査実施期間中に収集されたデータにより①データ識別 ID の重複があれば再入院と判定(ただし、前回入院から 6 週間以内に再入院があった場合に限る。)、②ICD-10 一致の場合は同一疾患、不一致の場合は異なる疾患として判断して、両者の再入院率を調査。
- 再入院ありと判定された患者について「再入院調査票」により再入院の理由を調査。
- 本年度においては、平成 14 年から 16 年の 3 年間の変化を把握することを目的として、3 年分の再入院症例について調査を実施した。(調査対象となった症例は約 123,000 件。)

(2) 調査対象病院

- DPC 対象病院・DPC 試行対象病院・DPC 調査協力病院の全病院

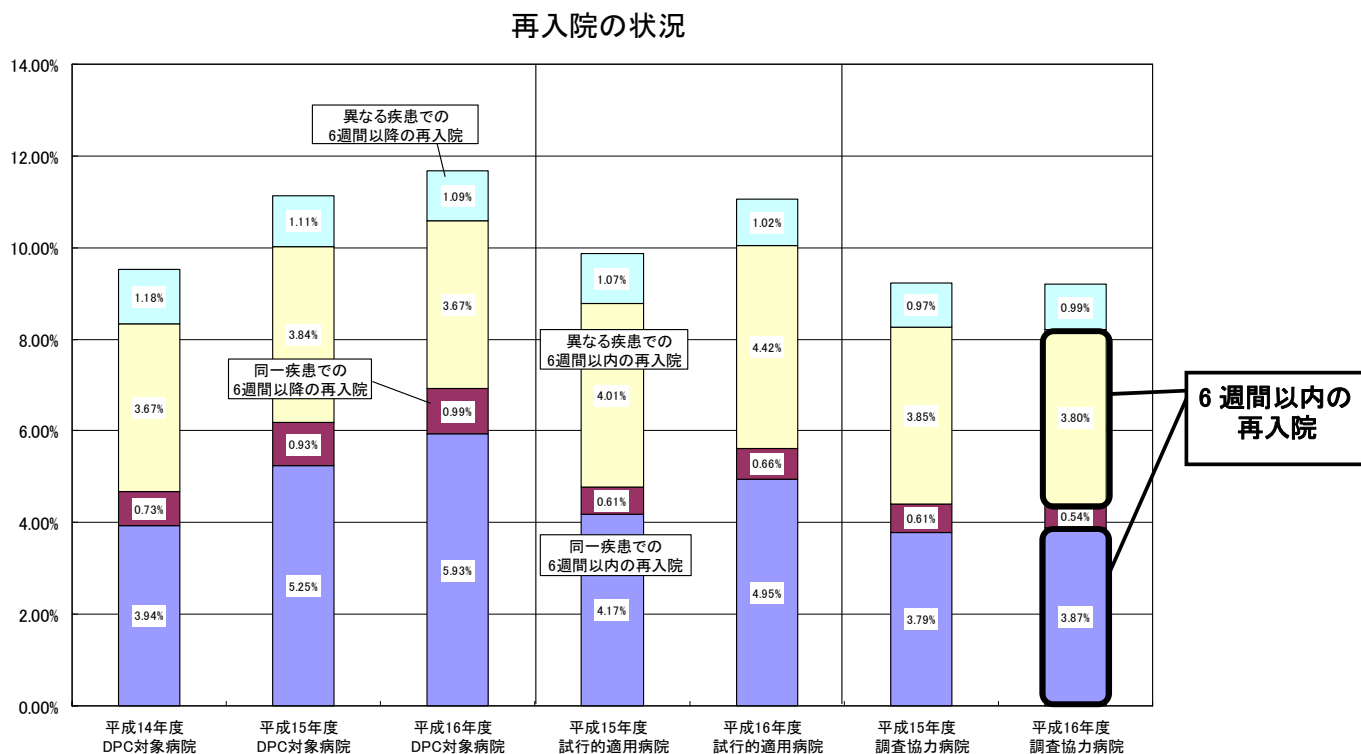
(3) 調査票

- 各症例毎に基本情報を記載した調査票(別紙 1)とデータ入力用のエクセルシート(別紙 2)を送付して、調査の負荷軽減を図るとともに提出データ形式の統一を図った。

4. 調査の実施状況

12月17日	調査説明会開催
1月24日	調査票の発送
2月28日	データ提出期限(データ収集状況の詳細は、別紙2)
3月1日～	エラーチェック・データ集計等

(参考) 下図からもわかるとおり、再入院率の変化は、主として6週間以内の再入院においておこっていることから、本調査においては、6週間以内の再入院に限って理由を把握。



5. 調査結果

○ 3月上旬までに調査回答を得られたデータをクリーニングし、データベース化した約 120,346 件のデータについて集計を行った結果は別紙3の通り。

「再入院の理由を把握するための調査」調査票

- | | |
|-----------------|----------------------|
| ◇ 医療機関名： | |
| ◇ 患者データ識別番号： | 生年月日（西暦）： |
| ◇ 診断群分類（前回退院時）： | 主傷病名（前回退院時）： |
| 入院日： | ICD - 10： |
| 退院日： | 退院時転帰：治癒、軽快、寛解、不変、増悪 |
| 入院目的： | |
| ◇ 診断群分類（今回退院時）： | 主傷病名（前回退院時）： |
| 入院日： | ICD - 10： |
| 退院日： | 退院時転帰：治癒、軽快、寛解、不変、増悪 |
| 入院目的： | |

- ◇ 再入院の理由：
- 「計画的再入院」か、「予期された再入院」か、「予期せぬ再入院」かをまず判断し、その具体的理由の欄に「○」を記入してください。
- 「あり得る」合併症の発症や疾患の再発があつて再入院した場合でも、それが患者に対して十分な説明がなされておらず、予期されていなかった場合には「予期せぬ再入院」としてください。
- 項目を選択するに当たっては、参考資料の例を参照してください。

* 計画的再入院

- () ① 検査入院後手術のため
- () ② 計画的手術・処置のため
- () ③ 化学療法・放射線療法のため
- () ④ 定期検査のため
- () ⑤ 前回入院時、検査・手術を中止して帰宅したため
- () ⑥ 手術のための体調回復をまつために一時帰宅したため
- () ⑦ その他 (_____)

* 予期された再入院

- () ① 予期された疾病の悪化、再発のため
- () ② 予期された合併症発症のため
- () ③ 患者の QOL 向上のため一時帰宅したため
- () ④ 前回入院において患者の都合により退院したため
- () ⑤ その他 (_____)

* 予期せぬ再入院

- () ① 予期せぬ疾患の悪化、再発のため
- () ② 予期せぬ合併症発症のため
- () ③ 他疾患発症のため
- () ④ その他 (_____)

(参考)

再入院理由の具体例

	項目	具体例
* 計画的再入院	① 検査入院後手術のため	小児の先天性心室中隔欠損症で前回カテーテル検査のため入院、今回はパッチ閉鎖手術のため入院。
	② 計画的手術・処置のため	前回、骨折で入院して観血的整復術をうけた。今回、抜釘手術のため入院。
	③ 化学療法・放射線療法のため	前回、急性骨髄性白血病に対する化学療法のため入院、今回も化学療法を受けるため入院。
	④ 定期検査のため	前回、急性心筋梗塞で大動脈バイパス手術を受けた。今回、術後のカテーテル検査のため入院。
	⑤ 前回入院時検査・手術を中止して一時帰宅したため	小児で斜視手術のため入院したが、前日夕に咽頭部の発赤と発熱があったので手術を中止して退院、軽快したので2週間後に手術のため入院。
	⑥ 手術のための体調回復をまつために一時帰宅したため	前回、極度の貧血のため入院、子宮筋腫の診断のもと貧血に対する治療を行い退院、今回、貧血が改善したため手術（単純子宮全摘術）目的で入院。
	⑦ その他	
* 予期された再入院	① 予期された疾患の悪化、再発のため	前回、胃癌再発で入院し治療をうけて退院、自宅療養中であったが腹水貯留が著しく、嘔吐を繰り返すようになり入院。
	② 予期された合併症発症のため	食道癌治療のため入院、患者の希望で胃瘻は造設されなかったが、退院時誤嚥性肺炎がおこることもあるとの説明を受けていた。退院一週間後誤嚥性肺炎が発症したため入院。
	③ 患者の QOL 向上のため一時帰宅したため	前回、肺小細胞癌で入院したが、ターミナルであるが小康をえていたので、患者の QOL の向上を図るため退院、今回、疼痛や呼吸困難が強くなり入院。
	④ 前回入院において患者の都合により退院したため	大腸ポリープの内視鏡手術のため入院したが、患者親戚に不幸があり、下血等の症状がなかったため退院。所用も片付いたので、再度入院してポリープ切除をうけた。
	⑤ その他	
* 予期せぬ再入院	① 予期せぬ疾患の悪化、再発のため	前回、虚血性心疾患で入院、治療をうけて軽快退院、退院時風邪をひかないようにとの注意を受けていたが、心不全になるとの説明はうけていなかった。退院1ヶ月後風邪をひき、心不全になったため入院。
	② 予期せぬ合併症の発生のため	前回、食道癌治療のため入院、患者の希望で胃瘻は造設されなかったが、今後誤嚥性肺炎がおこりうるとの説明はなかった。退院1週間後誤嚥性肺炎のため入院。
	③ 他疾患発症のため	前回、白内障のため眼内レンズ挿入術をうけて退院、その5日後急性心筋梗塞を発症して入院。
	④ その他	

(参考：調査実施要項)

「再入院の理由を把握するための調査」について

1. 調査の目的

DPC包括評価の実施に伴い医療効率化の一つの指標としての在院日数の短縮が図られているが、この短縮により提供されている医療サービスが低下していないかどうかを再入院の頻度やその理由を調査することによって検証する。

2. 調査方法

(1) 調査対象医療機関

- DPC 対象医療機関、DPC 試行対象医療機関及び DPC 調査協力医療機関の全医療機関を対象とする。

(2) 調査対象患者

- 調査対象患者は下記の通りとする。
 - ・ 平成14年度、平成15年度、平成16年度に実施された「7月から10月までの退院患者に係る調査」に基づき把握された、前回退院から6週間以内に「自院」へ再入院した患者
 - ※ 再入院かどうかは、データ識別番号の重複により判断。集計対象データは
 - 入院日、退院日、生年月日に誤りが無いこと
 - 4月1日以降入院同年7月1日～10月31日退院患者であること
 - 6週間以内に再入院ありと判断したもの
 - ※ 調査期間中に複数回の再入院があっても、各再入院につき同様に対応してください。

(3) 調査方法

- 基礎調査のデータより再入院ありと特定された患者のデータ識別番号等に基づき、各医療機関はその患者について「再入院調査票」(別紙1)により再入院の理由を調査し、磁気媒体によりデータを提出する。(入力フォーマットは別紙2)
 - (具体的な進め方の例1) 原則として、診療録管理室において磁気媒体に入力をおこなう。診療録管理室から各診療科に問い合わせを行う。
 - (具体的な進め方の例2) 診療録管理室から別添の紙媒体により調査票を各診療科に配布し、各診療科からの結果をもとに診療録管理室において磁気媒体への入力、確認を行う。

(4) 調査スケジュール

- 1月24日(月) 調査票の発送
- 1月25日(火)～ 各医療機関における調査
- 2月28日(月) 各医療機関からの調査票の厚生労働省への返送

別紙3

1.調査対象病院と回答病院

	対象病院数(A)			回答病院数(B)			回答率(B/A)		
	H14	H15	H16	H14	H15	H16	H14	H15	H16
DPC病院	80	81	82	80	81	82	100.0%	100.0%	100.0%
DPC試行の適用病院		62	62		62	62		100.0%	100.0%
DPC調査協力病院		20	20		18	18		90.0%	90.0%
DPC新規調査協力病院			62			60			96.8%
総計	80	163	226	80	161	222	100.0%	98.8%	98.2%

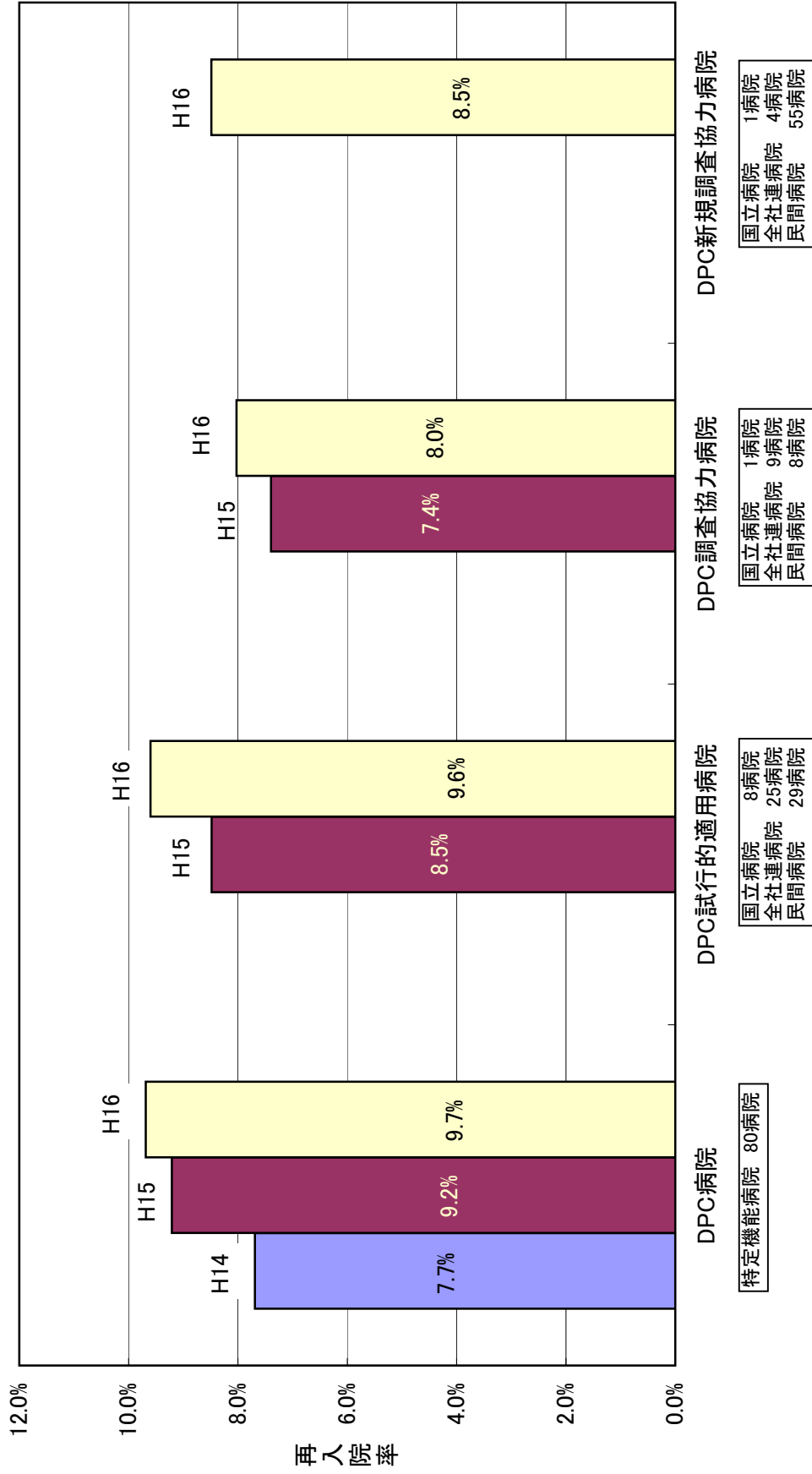
2.対象症例と回答症例

	分析対象病院	DPC調査退院症例数(C)			再入院症例数(D)			回答症例数(E)		
		H14	H15	H16	H14	H15	H16	H14	H15	H16
DPC病院	80	281,270	302,216	318,266	21,628	27,833	30,827	21,385	27,416	30,133
DPC試行の適用病院	62		130,059	148,255		11,030	14,234		11,000	14,170
DPC調査協力病院	18		28,290	33,201		2,092	2,665		2,087	2,662
DPC新規調査協力病院	60			118,086			10,021			9,995
総計	220	281,270	460,565	617,808	21,628	40,955	57,747	21,385	40,503	56,960

3.再入院率と回答率

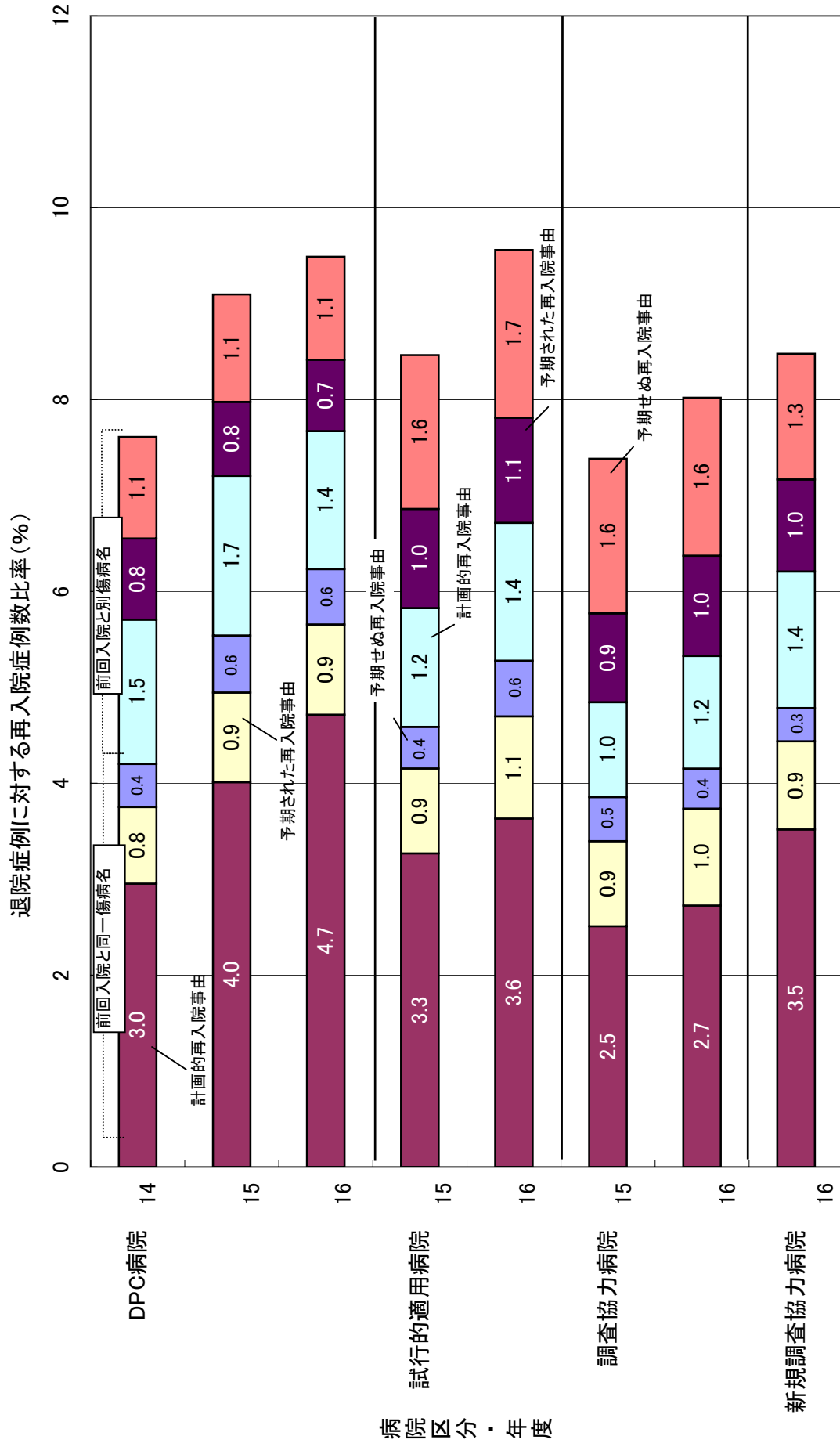
	分析対象病院	再入院率(D/C)			回答率(E/D)		
		H14	H15	H16	H14	H15	H16
DPC病院	80	7.7%	9.2%	9.7%	98.9%	98.5%	97.7%
DPC試行の適用病院	62		8.5%	9.6%		99.7%	99.6%
DPC調査協力病院	18		7.4%	8.0%		99.8%	99.9%
DPC新規調査協力病院	60			8.5%			99.7%
総計	220	7.7%	8.9%	9.3%	98.9%	98.9%	98.6%

病院区分・年度別 再入院率



退院患者基礎調査実施期間中に収集されたデータによりデータ識別IDの重複があれば再入院と判定(ただし、前回入院から6週間以内に再入院があった場合に限る。)

再入院患者の推移



(注)前回入院と今回入院とで傷病名が同一の場合と異なる場合との合計の場合

再入院事由の変化(前回入院と今回入院で主傷病名が同一の場合と異なる場合別)

